



コラム

● 日常生活の中におけるわたくしの統計 ●

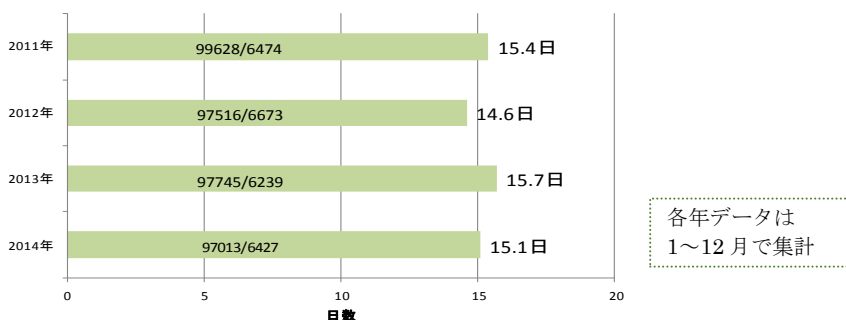
QI 委員 糖尿代謝科 高橋美琴

私と 4 歳になる息子の日課…それは通勤、帰宅途中に電車(主に運転手・車掌さんにむけて)ハ手を振ること。時刻表をいつでも出せるよう通勤リュックにセットし、タイミングよく電車にあえるよう歩幅を微調整。これも全て気持ちよく仕事や帰宅後の家事をスタートするため! と思っているのですが、自分も楽しみつつある今日この頃です。「8 時 10 分前後はカラフル電車にあう確率が高い」「車掌さんが高橋さんと気持ちよく手を振ってくれる(名前と顔を覚えちゃいました)」がわたくしによる仙石線の統計学。わが子も幼いアタマながら、車掌さんが手を振ってくれて、「ばぁーん」と鳴らしてくれる確率が高い場所を「ここじゃダメ、あっちの場所がよいんだな!」と日々模索中のようです。

仕事でも家庭でも忙しさに余裕がないと視野も狭くなり、かえって悪循環になる。「穏やかな笑顔」を心がけていると結構すなりと物事がうまく行く。これは私だけでなくみなさんが感じている統計の 1 つとってよいでしょうか。子どもの描くママの顔がいつもニコニコしていることを嬉しく感じ、常にこうありたいと思いますが…それが難しいのが人間という生き物。冷蔵庫の扉にドロシー・ロー・ノルト博士の「子は親の鏡」の訳文を貼り、カ〜っとしたときに見るようにしています。文章の最後は「和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はきっとよいところだと思えるようになる」で締めくくられています。いやなニュースが多い昨今、安心して子どもが暮らし、そして羽ばたけるよう、親ができることを頑張っていきたいなと思います。



指標紹介 平均在院日数(回復期リハビリテーション病棟を除く)



平均在院日数は、入院患者が平均して何日間在院したかを示す数値です。平均在院日数を把握することで、急性期病院としての総合的な取り組みを評価します。平均在院日数を他の医療機関と比較する上でポイントになるのが、「病気の種類」や「重症度」によって入院日数が異なるという点です。同じ病気であっても患者さんの年齢・基礎体力や合併症の有無により入院日数が異なるため単純に比較をすることは出来ません。国の定めた指標である重症・看護必要度を分析したところ 2014 年が上記期間の中で最も重症度が高くなっていましたが、平均在院日数は 2 番目に短くなっていました。当院では退院支援室を中心に患者さんの早期在宅復帰に向けて組織的に退院支援に取り組んでおります。

一般的に質の保証と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど平均在院日数は短縮するとされています。当院ではこの指標をもとに、質が高く安全で適切な医療を受けることが出来るよう取り組んでいきます。

QI 委員 診療サービス課 菅原 朋美

*参考:DPC 対象患者に限ると、2012 年度の 14.7 日から 2013 年度の 16.2 日、2014 年度(2 月まで)の 16.3 日と延長しています。

シリーズ「統計のはなし」No.21

今回のコラムはニュースの本題に合わせて「平均在院日数」についてお届けします。

平均在院日数の種類

平均在院日数には算定の方法がいくつかあり、どの計算式を用いるかによって意味合いが変わってきます。

(1) 退院患者の平均在院日数

一定の期間内に退院した患者について、その入院期間を集計し、退院患者数で割った平均値です。いわゆる「算術平均」で「患者調査」にて算定されています。

(2) 在院患者の平均在院日数

調査時点(例:月末)に在院している患者さまの入院の日から経過日数を集計し、在院患者数で割った平均値です。ただし、患者さまがその後いつまで在院するか調査時点では分からないため正確性に欠けます。また、算定式の中でも最も長い日数が出る傾向が多いようです。

(3) 入院患者の平均在院日数

調査期間に入院した患者について、退院するまでの日数を追跡調査するために用いる平均値です。特定の傷病について長期間かけて調査(前向き調査)する場合に用いられますが、調査日数が読めず、病院の経営や現状を測るためには使えません。

(4) 入退院数から算定した平均在院日数

「病院報告」で報告されている算定式です。調査期間(月間、など)の在院延べ患者数を新入院患者数と退院患者数の平均で割って求めます。なお、「在院延べ患者数」は退院患者数を含みません。

前 3 項と違い、直感的な平均値ではありませんが定期的に平均在院日数を求めるため、病床数とその回転率から間接的に求める平均値、と解釈できます。なお、調査期間以前に入院し、以後に退院された患者さまが多い場合、平均在院日数は高めになります(分母に含まれないため)。

(5) 推定平均在院日数

厚生労働省によって報告されている平均在院日数の推定値です。(例:「推計平均在院日数の数理分(II)」<http://goo.gl/IIQSVu>) (4) の平均在院日数の近似値で、レセプト報告から求められます。入院受診延日数(退院日を含む述べ在院日数)を N、調査月の日数を D、レセプト件数を K とすると、ひと月の推定平均在院日数は

$$N/K * (D-1)/(D-N/K)$$

という式で算定されます。他の算定式に比べて複雑な式ですが、入退院数が不明な統計データを元に推計する場合に用いられます。

これらはいずれも「平均在院日数」と呼ばれるため、何を算定しているか確認しつつ活用していきましょう。医療情報企画センター SE 佐藤洋之

次号(第 22 号・4 月発行予定)のご案内

次回は引き続き指標紹介「病床稼働率」、シリーズ「統計のはなし」No.22 を予定しています。

